



北海道室蘭市立白蘭小学校 学校便り

白蘭

令和5年 10月24日 10月号 No8



【学校教育目標】

- ・深く学ぶ子
- ・心豊かな子
- ・健康な子
- ・未来をつくる子

ホームページは、「白蘭小学校」で検索するとすぐ見つかります。

ハッピー ミュージック

～みんなで協力して、楽しい思い出になるような演奏をしよう～

4年ぶりに行動制限を設けずに実施した音楽発表会でしたが、混乱もなく無事に終わることができました。たくさんの祖父母の皆様やご来賓にもお越しいただき、子どもたちにたくさんの拍手をいただきました。どうもありがとうございました。どの学年もそれぞれに目標をもち、音楽発表会のテーマ「ハッピー ミュージック ～みんなで協力して、楽しい思い出になるような演奏をしよう～」を達成できたのではないかと思います。発表の仕上がりも大変立派でしたが、普段の学習（練習）を見ていると、姿勢を正して先生の話聞く態度や友だちと相談しながらお互いを高め合う姿など、ステージの発表だけでは見る事の出来ない素晴らしい姿がたくさんありました。日常のどんな場面でも重要な、人として大切にしなければいけない心の育ちを感じました。本校が育成を目指す資質・能力「他者意識」と「粘り強さ」が培われている場面でした。そして、会場のみならず笑顔で楽しい時間を過ごせた、大成功の音楽発表会だったと思います！



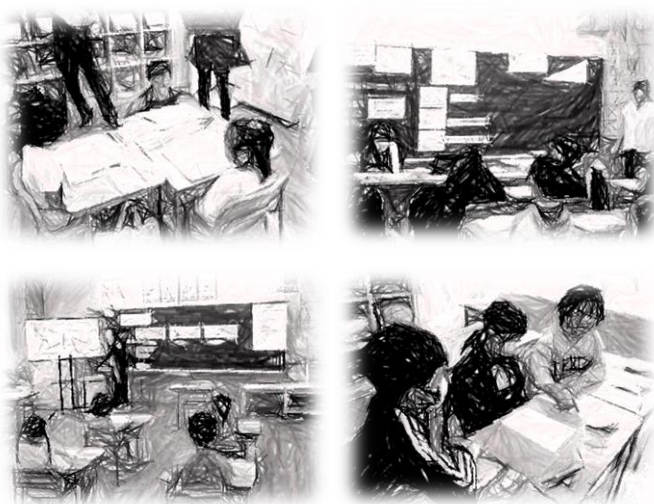
なお、音楽発表会同様に、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、今年度は学習活動の幅が広がり体験的な学習が大変充実しています。先日は2年生が給食センターの見学に行きました。コロナ禍では考えられなかったことです。その他、日本製鉄現地見学やパラリンピックメダリストの学校訪問等、外部との交流がどんどん復活しています。活動の様子等は白蘭小のホームページでも紹介していますので、是非ご覧ください。



日	曜	11月の主な行事
1	水	見学学習(6年)
2	木	フッ化物洗口
3	金	文化の日
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	見学学習(3年)
9	木	フッ化物洗口 スケート学習(5年) クラブ⑥
10	金	漢字検定
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	スケート学習(3年)
15	水	
16	木	フッ化物洗口 スケート学習(4年)
17	金	委員会③
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	室蘭市学力向上事業研究奨励校公開研究会
23	木	勤労感謝の日
24	金	スケート学習(6年) クラブ⑦(反省)
25	土	
26	日	
27	月	特別支援学級個人懇談週間(～12/1)
28	火	参観日(3・6年)
29	水	参観日(1・4年)
30	木	参観日(2・5年) フッ化物洗口

授業公開 1年生・6年生

1学期の2年生に引き続き、8月に1年生、9月に6年生で授業公開を行いました。教員がお互いの授業を見せ合うことで、日常の授業改善を進めています。1年生は、算数科で『ブロックを使って計算のしかたを考えること』、6年生は、算数科で『互いの考えを比較すること』をねらった授業を行いました。白蘭小学校では、今後も子どもたちが『できた』『わかった』とその日の学習を振り返ることができるような授業づくりを目指していきます。

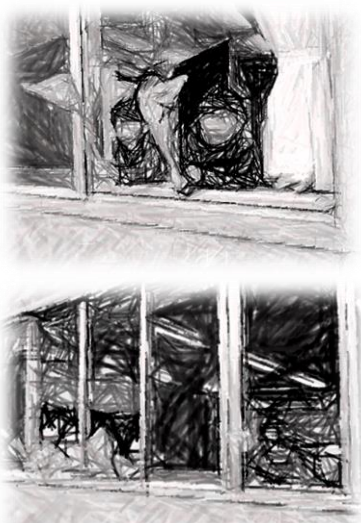


ランニング週間始まりました!

本校では、持続力の向上を図ると共に、最後まで頑張り抜く忍耐力を養う事を目的に、ランニング週間を設定して全校で取り組んでいます。1周140mのトラックを5分間走り、何周できるかを記録していきます。10月に入り気温が下がったり、天候が悪かったりする日が多く、延期になることもありますが、子どもたちは水筒や汗拭きタオル、上着等を持参し、走るときは暑さ対策、走り終わったあとは寒さ対策をとりながら、目標とする記録に向かって頑張っています。この取組を通して「健康力」と「粘り強さ」を養ってほしいです。

室蘭市交通安全 人と旗の波運動

10月10日に室蘭市交通安全『人と旗の波運動』が行われました。毎年、白蘭小学校では1・2年生が校舎前の歩道で旗を振って車列を迎えています。今年度は雨のため校舎から旗を振りました。この取組をきっかけに、子どもも大人も改めて交通安全の大切さについて考えてほしいと思います。



後期児童委員会 認証式

9月27日に後期児童委員会の認証式を行いました。後期は、各学年が次の学年に向かう大切な時期であり、委員会の取組も前期よりもさらに充実した取組を目指していくことが期待されます。認証式では、各委員会の代表として委員長が後期の委員会で頑張りたいことを全校児童の前でしっかりと決意表明しました。それぞれの委員会で、『学校をよりよくするために』『楽しく過ごせるようにするために』たくさん考えを出し合い、友達の考えもしっかり受け入れながら『他者意識』をもって活動することで、学校も子どもたちも元気になる取組を進めてほしいと思います。

